

令和 6 年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

推進責任者： 附属図書館長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
図書館の利用環境の整備状況及び活用状況	学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えられていること。	紙媒体（印刷物）の蔵書数、電子情報資源の利用可能種類数、マイクロ資料の所蔵数、視聴覚資料の所蔵数について、確認する。	学術情報基盤実態調査 （大学図書館編）	適切である
	資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の整理（処理）及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めていること。	図書・雑誌受入数、サービス状況、図書館の公開、他機関との連携、電子図書館的機能、機関リポジトリについて、確認する。	学術情報基盤実態調査 （大学図書館編）	適切である
	機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員が置かれていること	図書館・室の職員数について、確認する。	学術情報基盤実態調査 （大学図書館編）	適切である
	大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えていること。 閲覧室には、学修（学習）及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。	施設・設備について、確認する。	学術情報基盤実態調査 （大学図書館編）	適切である

2.結果総括

【優れた点】

○ 図書館サービス状況（地域貢献含む）

- ・ 新型コロナウイルス感染症防止対策を終了し、サービス制限を順次撤廃した。また、学外利用者（一般市民、放送大学生）の利用を再開した。
- ・ キャンパスミュージアムイベントの一環として、貴重資料展「甦る歴史資料群」、公開講演会／永青文庫セミナーを対面開催し、歴史的貴重資料の公開による社会貢献を実施した。
貴重資料展は合計413名の参加が、公開講演会／永青文庫セミナーは136名の参加があった。
公開講演会／永青文庫セミナーは後日オンラインでも配信し、近隣地域以外にも社会貢献できた。
- ・ オープンキャンパス対面開催を再開した。来学者へ図書館の見学を解放し、1,127人の参加があった。
- ・ 中学生・高校生の見学受入を行った。（熊本県立天草高等学校、熊本県立済々黌高等学校、熊本学園大学付属高等学校、広島市立早稲田中学校）
- ・ 図書館利用者向け展示を中央館・医学系分館・薬学部分館で計17回開催し、図書館資料を多面的に紹介した。また、熊本県立美術館と連携し、美術館の展示と連動した図書の展示を行った。
- ・ 図書館オンライン講習会の企画・運営として、再視聴可能なMoodleで提供した。また、リアルタイム配信型の講習会も実施した。

○ 図書館資産の拡充・活用

- ・ 図書4,532冊を受入れ、整備した。うち1,106冊は教員・学生による選書により連携・協働して図書を購入した。
- ・ 電子書籍126冊を導入した。
- ・ 除却候補図書の再貸出を行い合計168冊を再貸出しした。廃棄図書を減少させ、図書資産を有効活用した。
- ・ 原田家文書（古文書）の寄贈受入を行い、貴重資料として認定した。
- ・ 電子ジャーナルのバックファイルを整備し、学術研究基盤を充実させた。

○ 研究支援及び附属図書館の国際化に関する取り組み

- ・ 歴史的な円安となった中でも、電子ジャーナルパッケージを維持する努力を行い、学術研究基盤環境を維持した。
- ・ 電子ブックのトライアル（医書.jp e-Bookアラカルト）を実施し、短期間試用により、利用環境を提供した。
- ・ 図書館ホームページでAPC割引情報を提供し、研究者（熊本大学）の支出減少をサポートした。
- ・ 論文のオープンアクセス化について、全学広報を実施した。
- ・ データベース等（CAS SciFinder、文献管理ツールEndNote、Mendeley）のオンライン利用説明会を実施した。
- ・ 学修支援スタッフ（図書館ティーチング・アシスタント）による学習相談・セミナー・留学生向け図書館ツアーを実施した。

○ 図書館管理運営状況

- ・ 附属図書館ネーミングライツ事業契約締結（3月）
 - ・ 契約相手：株式会社肥後銀行
 - ・ 愛称：ひご未来図書館（中央館全体）、HigoBank Learning Commons（ラーニングコモンズ）
期間：令和9年3月31日まで
- ・ 薬学部分館閲覧室の窓を改修し網戸を設置し、快適な学習空間を提供した。
- ・ 熊本大学附属図書館クラウドファンディングプロジェクト「記録は宝 熊本大学「松井家文書」の記述と新たな発見を未来へ」実施/成立
支援者279名、寄附総額4,636,000円
- ・ 国際規格IIIF対応のデジタル・アーカイブシステム構築を開始した。
- ・ 劣化施設の補修を着実に実行した。
- ・ 国立国会図書館より「レファレンス協同データベース事業」への貢献に対して国立国会図書館から御礼状が授与された。

【改善を要する点】

特になし